

## 4. 製造資本



### 事業のトランスフォーメーションを支える、ICTの施設基盤

#### FUJITSUの「製造資本」

全大陸をカバーする「データセンター」をはじめとしたグローバルなサービス供給体制を確立

富士通グループのクラウドビジネスを支える主な製造資本は、「データセンター」と、全世界への商品やサービスソリューションの提供拠点となる「デリバリーセンター」です。

世界100拠点以上にあり全大陸をカバーするデータセンターでは、お客様のICT資産をお預かりし、24時間365日体制でサービスを提供しています。災害対策、高密度対応の電力空調設備・床荷重、セキュリティ、グリーン性能など、最新の技術を採用した高品質かつ堅牢なファシリティがお客様に高く評価されています。また、主要センター間は高速ネットワークで接続されており、システム連携や相互バックアップなどによってお客様のBCP (Business Continuity Plan) を支援しています。さらに主力となる館林データセンターでは2016年4月に、明石データセンターでは同年7月にそれぞれ新棟を開設する予定です。

また、グローバルデリバリー部門では、4リージョンによるグローバルデリバリー体制を整備。180カ国以上をカバーするオンサイトサービス、30言語以上に対応したサービスデスクを通じて、グローバルビジネスを展開するお客様をサポートしています。

#### 「製造資本」の活用・増強

製造工場——ものづくりの付加価値の向上とファウンドリ新会社を設立

富士通グループの製造工場は国内で46拠点、さらに海外にも30拠点あります。お客様に高品質な製品をできるだけ早く提供するため、常にQCD (品質・コスト・デリバリー) を向上させるべく、徹底した効率性の追求に取り組んでいます。特徴的な取り組みとして、これまでお客様先で行っていたシステム納入におけるインストール、現地調整などを工場一括で行い、納入時間の短縮と作業の効率化を図るなど、工場の付加価値を向上させています。また、製造システムを統一し、生産ラインを共通化することなどにより、各工場の均質化による生産体制の柔軟性を確保する一方で、各工場の特長や強みを活かしたものづくりソリューションの提供 (ものづくりの受託、ものづくり全般に対するプロフェッショナルサービスなど) も行っています。このようにお客様の信頼にお応えするため、付加価値のさらなる向上およびQCDの徹底追求について、様々な取り組みで実現していきます。

また、富士通セミコンダクターは、2014年7月に発表した「半導体事業の再編」に基づき、300mm製造ラインの「三重富士通セミコンダクター」、150mm製造ラインの「会津富士通セミコンダクターウエハソリューション」、200mm製造ラインの「会津富士通セミコンダクターマニュファクチャリング」、およびこれら会津地区の2社を統括する「会津富士通セミコンダクター」に分割、ファウンドリ事業会社として事業を開始しました (P.68の図をご参照ください)。

Topic

#### グループ国内外全ての社内システムを新クラウドサービス「FUJITSU Cloud Service K5」へ刷新

富士通グループは、ビジネス環境の変化に柔軟かつ効率的に対応していくために、グループで稼働している計約640システム (サーバ数：約13,000台) を、2015年2月から順次、新クラウドサービス「K5」へ移行しています。「K5」は、オープンスタックベースの新しいクラウドサービス基盤で、移行完了までの5年間でグループ全体で約350億円のTCO (Total Cost of Ownership) 削減を見込んでいます。また、一部のお客様と実証を行いながら継続的に機能開発を行い、培ったスキル・ノウハウをリファレンスモデルとして、お客様へのソリューション提案・システム構築・運用に活用していきます。

